

記録の重要性

最近、当科前身の旧第2外科OBから自身の手術記録を見せてほしいとの依頼があった。詳細は省くが、ある難病に対する手術を幼少時に受けたことがあり、長期生存例としてご自身により論文化して症例報告したいとのことだった。もちろん喜んでお受けし、カルテ庫から当該記録を探し出して、コピーをご本人にお渡しした。自らを材料にして貴重な知見・情報を公に提供し、科学の発展に寄与しようとする姿勢に強く感銘を受けた。論文の完成が楽しみである。



また、コロナ禍中だったと思うが、関東大震災の際の東京大学病院の対応につき調査するという話があり、当時の入院カルテの一部と震災当日を含む当直日誌を提供したことがあった。1923年9月1日当日の当直日誌には「大地震!!!」「11時58分激震」「胃癌手術ノマサニ終ラント筋肉縫合終リ皮膚縫合ニウツラントスル時ニ激震アリ 手術場は上下左右前後ニ震動シ電燈落チ硝子飛ぶ。手術患者ハナルスコモさめとび起キントス 学士死ヲ決シ患者ヲ身ヲ以テ被ひ患者ノ生命ト手術創ヲ安全ニス医者ノ鑑み」(原文ママ、ナルスコは麻酔薬の一種：筆者注)というような生々しい記載も見られた。翌9/2には塩田外科救護所設置(塩田外科とは塩田広重第2代教授が主宰する東大第2外科のこと)、9/7塩田外科の図書室に臨時外科救療部本部設置、9/17手術再開、10/10教授の略式総回診再開、10/15医学部授業再開と続く。意外に早く日常業務が再開されていたようにも思えるが、9/5水道不通・電灯なし、9/11今朝から風呂あり・レントゲン検査可能、などという記録もあり、そう簡単でもなかったようだ。当時の当科先輩方の奮闘をうかがうことができ、誇らしく、また感慨深い。

ところで、今後はこの種の依頼には応えられなくなるかもしれない。通常、カルテ保管は5年が義務とされるが、当院では10年と少し余裕を持たせている。ただし、完全に電子カルテに移行してからまだ10年くらいであり、膨大な紙カルテがいまだ残っている。この紙カルテの保管スペースの確保が難しくなっているのである。一度電子ファイル化を検討したが、費用が相当かさむ。とても一診療科で対応できる金額ではない。大学に頼み込んで、戦前のカルテと当直日誌だけはとりあえず「古文書」扱いとして図書館に引き取ってもらったが、戦後の分は建て替え予定の古い建物の地下倉庫に仮に置かせてもらっているだけで、いつまで保管できるか定かではない。この種の文書は東大外科あるいは日本の外科の歴史そのものである。いったん破棄してしまったら、永久に戻らない。当院では10年以上経過したカルテを多くの診療科がやむなく破棄しているようだが、貴重な記録をなんとか後世に残したいものである。

(長谷川 潔)

顧問 今村正之 山崎洋次 幕内雅敏 名川弘一

亀岡信悟 國土典宏 幸田圭史 佐野 武

編集 長谷川 潔 船橋公彦 山下裕玄

臨床雑誌 外 科	第88巻 第2号(2月号)	2026年2月1日発行(1108号)
編集兼発行者	東京都文京区本郷三丁目42番6号	小 立 健 太
印刷所	東京都千代田区飯田橋二丁目15番5号	日経印刷株式会社

発行所 ☎ 113-8410 東京都文京区本郷三丁目42-6(営業) TEL 03-3811-7239 : 振替口座 00120-1-149 番
株式会社 南江堂 (編集) TEL 03-3811-7619 FAX 03-3811-8660 <https://www.nankodo.co.jp/>

・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権(送信可能化権を含む)、貸与権、二次的著作物の利用に関する原作者の権利は、株式会社南江堂が保有します。

・**JCOPY** <出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構(電話 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, e-mail: info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。

広告申込所: ☎ 113-0033 東京都文京区本郷5丁目24番6号本郷大原ビル6階 文京メディカル TEL 03-3817-8036